



# かがやけ★ あいちサステイナ研究所

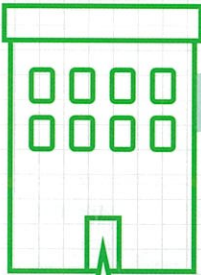
企業×学生が協働し、企業における環境に関する取組の新たな展開を大研究!

## あいちの「人づくり」プロジェクト!



2016年7月2日開所式  
(愛知県庁本庁舎にて)

パートナー企業



課題提示

解決策提案

かがやけ★  
あいちサステイナ研究所

所長 ≫ 愛知県知事  
大村秀章



研究員 ≫ 学生



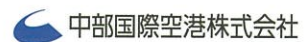
広く情報を発信!



イベント  
大学での発表



2016年度  
パートナー企業  
(五十音順)



研究成果の詳細はこちらでチェック  
<https://sustaina-ken.net>



課題

環境配慮型モノづくり企業を  
応援する企画を検討せよ!

昨年度の研究所で、顧客の環境経営を後押しする金融サービスとして、地域資源を活用した環境配慮型モノづくりを行っている企業を対象に、製品デザインやPR動画を学生が製作するサービスを提供する融資特典「あいちエコもの+ (プラス)」が提案された。今年度は、この提案を具体化するために、ホシザキ株式会社の環境に配慮したモノづくりを応援する企画を検討する。

解決策

「あいちエコもの+」実践!  
「ホシザキfree Wi-Fi」など、大学生向け  
環境取組PR!

解決策の方向性 (考え方)

業務用冷蔵庫等を製造するホシザキ株式会社。同社はノンフロン製の環境配慮型製品やジビエの普及など様々な環境取組を実施。しかし認知はまだ進んでいない。そこで、次世代を担う若者に、同社の環境取組をPRし、応援する方策を検討した。

具体的な展開案

「あいちエコもの+」とは? 愛知のエコなモノづくり企業を、学生が主体となって応援する!

解決策 1 ホシザキecoペンギン 大学生コンペ

**POINT** ホシザキが環境活動を行っていることを印象づけるシンボルマークを考案!

学生アンケートからホシザキのペンギンマークの認知度が高いことが判明。新たにエコのシンボルとなるマークを作り、ホシザキの製品に既存のロゴマークとあわせて表示することで環境取組をPRする。またマークのデザインコンペを学生向けに実施し、学生を巻き込みながら制作を行う。



解決策 2 ホシザキキッチン

**POINT** 学生が昼食でよく利用する学食等でジビエを販売!

ホシザキは、野生鳥獣による農林水産被害や生態系破壊を防ぐために、ジビエに関する食肉の衛生管理・保存技術を活用したジビエの普及に取り組んでいる。これに、三井住友銀行の顧客ネットワークを活用して、ホシザキと食品加工業者をビジネスマッチングすることで、学生に向けてジビエを販売。



解決策 3 ホシザキfree Wi-Fi!

**POINT** 学生のニーズを生かした環境取組のPR!

ホシザキの製品が飲食店で多く使われていることと、学生の飲食店でfree Wi-Fiを利用したいというニーズと結びつけたPR方法を提案。ホシザキが行う厨房設計の一環として、飲食店にWi-Fiサービスを組み込んだ厨房設計を行うことで、「ホシザキfree Wi-Fi」を整備。Wi-Fi接続画面で、ホシザキの事業や環境取組をPRし、ホシザキの環境活動を知ってもらうためのサービス。



持続可能な社会へのポイント

上記の提案により、若者が普段の生活の中で企業の環境活動を知る機会が増えることで、愛知のエコなモノづくり企業を応援することができる。また、企業の先進的な環境取組について知ること、次世代を担う若者の環境意識が向上し、持続的な環境活動につなげることができる。



研究員からのメッセージ

私たち自身、環境問題などについて知ることが、環境意識の向上へとつながりました。そこで、「知る」ということが環境活動の第一歩だと考えました。そのため、大学生を中心とした次世代を担う人々の環境意識の向上や環境への取組を活性化するために、私たちの提案を実践していきたいです。

チーム・SMBC ★ 南山大学 3年 田中 李歩 / 南山大学 3年 高橋 柚乃  
南山大学 3年 豊田 幸恵 / 南山大学 3年 村松 佳歩 (★=リーダー)

ファシリテーター 南山大学 経営学部 教授 南川 和充氏



課題

**お客様が当行を利用することで、  
環境配慮を実感できる  
新しいサービスを検討せよ!**

当行はお客様に身近な銀行として愛知県内に92店舗展開しており、利用いただく個人のお客様を対象に、CO2削減等の環境配慮の取組として、Eco通帳・Eco通知サービス等を実施している。さらに環境配慮の取組を広げるため、既存の紙媒体を利用した契約形態の見直し等を通して、当行を利用するお客様が環境配慮を実感できるような新しいサービスについて検討する。

解決策

**新たな「Will口座」と既存の「Eco通帳」を  
組み合わせた新サービス  
SEA「Sustainable Eco Assist」**

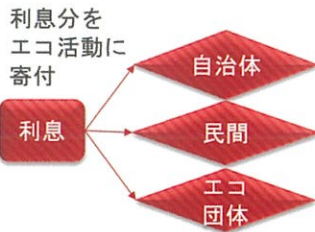
解決策の方向性（考え方）

エコアクションを実践しなければならないと考える人が、たくさんいることに着目し、多くの人が利用する銀行だからこそできる環境配慮型金融サービスを検討した。

具体的な展開案

**Will口座**

社会貢献・環境配慮に意識の高い人を対象に、預金の利息分を若者とともにやっている環境活動に寄付することで、手軽に環境保全に貢献していることを実感できる金利自動寄付サービス。



**Eco通帳ポイントアプリ**

ペーパーレスのインターネットバンキング「Eco通帳」。このサービスを普及するため、Eco通帳を利用することでポイントがたまるポイントアプリを開発。ポイントを貯めることで、エコグッズと交換することができる。なおかつWill口座での寄付先の環境活動の情報を公開する。



**新サービス  
「SEA(Sustainable Eco Assist)」**

SEAとは新たなWill口座と既存のEco通帳、そして2つのサービスの相乗効果を高めるポイントアプリをセットにした仕組みである。

SEAの効果として、①Will口座とEco通帳をポイントアプリでつなぐことで、2つのサービスの普及拡大への相乗効果を生む。②お客様が「環境配慮を実感」すること、「直接的な環境取組」につながることを包括することができる。③環境保全につながる2つのサービスを同時に利用することで、より一層の、お客様の環境配慮の実感と株式会社三菱東京UFJ銀行の環境への取組につながる。の3つがあげられる。

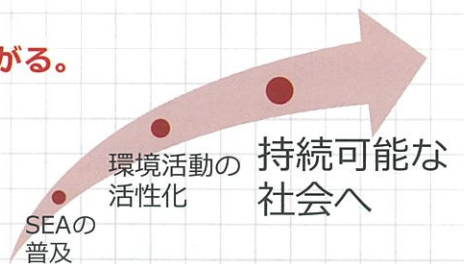
**SEA  
Sustainable Eco Assist**

**Will口座 + Eco通帳**

ポイントアプリ

持続可能な社会へのポイント

**お客様がWill口座を通じて環境活動へ寄付をすることで、その活動が広がる。  
また、Eco通帳ポイントアプリにより、Eco通帳の利用が促進され、  
紙資源の削減になる。  
私たちの提案するSEAが普及することにより、  
継続的な環境活動が実施され、持続可能な社会につながる。**



研究員からのメッセージ

新サービスを利用し環境配慮を手軽に実感できるようになることで、人々の環境配慮に対する意識を向上させていきたい。そしてこのサービスが社会に普及していくことで、持続可能な社会に向けての一步につなげていき、今後の自分たちの未来をつくっていきたい。

チーム・BTMU

★ 中京大学 3年 林 慎太郎 / 中部大学 3年 奥村 友香 (★=リーダー)  
愛知県立大学 3年 川上 莉奈 / 名古屋大学大学院 1年 伊達 祐真

ファシリテーター

環境省 中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー 新海 洋子氏



課題

持続可能な社会に向けて  
「環境」をテーマとした  
旅行商品を検討せよ

同社では、過去に、お客様にこの地域や日本の自然環境のすばらしさを体感してもらうことで、お客様の環境意識を育む環境ツアーを実施していた。今後はこの環境ツアーを継続的かつメジャーな商品として展開していくため、「お客様のニーズ」、企画・実施する「旅行会社が抱える問題」を検証し、お客様と旅行会社の相互にプラスとなるような環境ツアーを検討する。

解決策

持続可能な社会づくりのための環境ツアー  
～大学生と留学生の交流～

解決策の方向性（考え方）

大学生、留学生そして地域の方が「環境」をテーマとした旅行商品を通じて交流できるツアーを企画。テーマは「自然環境問題の今を知る」。環境を深く考え、交流ができる旅行プランを検討した。

具体的な展開案

日本人学生と留学生が、新都市の自然環境の素晴らしさを通じて課題を考える！

**POINT** 今や、万国共通の課題である環境問題に着目！  
今までにない！環境ツアーだからこそできる異文化コミュニケーションにより、  
各国の若者同士の交流を促進！

近年、環境問題解決のために環境ツアーという概念が導入されてきました。なかなか参加者を集めることが難しく、その特性を生かしきれていないのが現状。しかし、環境ツアーだからこそできることがある。

例えば、これからの持続可能な社会を担っていく若者育成のためには、グローバルな視点が必要。このような視点を養うためには異文化のコミュニケーションが必要であり、私たちはこの点に着目し、自然環境問題を学びながら異国間の若者(日本人学生×留学生)が交流することを目的とした新しい形の環境ツアーを検討した。

その行き先として、新都市を選択。新都市は千枚田・桜・紅葉など四季折々の自然に恵まれていながらも、同時に若者の流出により過疎化が進み、地域社会の担い手が不足しており、「ストップ少子化・地方元気戦略」<sup>※</sup>において、消滅可能性都市とされている。その新都市を舞台とし、大学生と留学生が日本の自然環境のすばらしさ、そしてそれらが減少しつつある現状と解決策(地産地消推進等)をともに学び、考えながら交流することをテーマに年間3回程度の一泊二日の旅行商品を提案する。

※日本創成会議・人口減少問題検討分科会2014年5月公表

旅程のポイント

1日目：季節に合わせた体験活動

2日目：新都市の環境を通じ、歴史・文化を考える。昼食は新城の食材を使った季節を感じるバーベキュー！



持続可能な社会へのポイント

- 参加者は、ツアーを通じて異文化交流と地産地消を体験し、グローバルな視点で身近な環境だけでなく、考える力を養うことができる
- 名鉄観光サービス株式会社と協働した環境ツアーの企画を続けることにより、若者に「知る」機会を継続的に提供できる

人材育成

国際交流

環境

地域活性化

研究員からのメッセージ

観光商品、いわゆるツアーを考えることなど人生で初めての経験が多くチーム全員戸惑うこともたくさんありましたが、パートナー企業である名鉄観光サービス株式会社をはじめ、大変多くの方にお話しやご助言いただき日本人学生にも留学生にもどちらにも楽しんでもらえるような環境ツアーができたと思います！ぜひ！このツアーにご参加ください！

チーム・名鉄観光 ★ 愛知工業大学 4年 岩田 和真 / 中部大学 3年 井上 恭助  
名古屋大学大学院 1年 周 君如 / 愛知大学 3年 本多 恵子  
ファシリテーター 中部大学中部高等学術研究所 講師 岡本 肇氏 (★=リーダー)



課題

ホテルのお客様が体感できる  
環境配慮商品・サービスを  
検討せよ！

同社では「環境に優しいホテル」を目指し社内で「ECO LIFE PROJECT」を展開、生ごみの堆肥化やLED導入など様々な取組を行っている。名古屋城の豊かな緑に囲まれた「ウェスティンナゴヤキャッスル」。ホテルを訪れるお客様に、宿泊・飲食・結婚式などあらゆるシーンで、ホテルライフを楽しみながら環境配慮を感じ取っていただける様な商品やサービスについて検討する。

解決策

ウェスティンナゴヤキャッスル発  
「～生物多様性を楽しむ～  
ホテル周辺SANPOマップ」

解決策の方向性（考え方）

ウェスティンナゴヤキャッスルは、名古屋城周辺の緑豊かな自然環境を体験できるホテル。この特性が、よりお客様に伝わり、ホテルでの滞在を楽しんでいただけるようなサービスを検討した。

具体的な展開案

「～生物多様性を楽しむ～  
ホテル周辺SANPOマップ」

【目的】 お客様に、春夏秋冬が楽しめるホテル周辺の自然の豊かさ、美しさを知ってもらう。

【マップの作成方法】

既存の生物多様性マップをベースにして、若者の視点で観光としても楽しめるマップを専門家と連携して作成する。

◎マップをより活用していただくために…

- マップを活用した散策ツアーと自然にちなんだホテル料理をセットにしたプチツアー
- お客様から、SANPO中の自然の写真を集めて参加型のマップづくり  
⇒ SNSを活用し、さらなる広がりをも！
- 一眼レフカメラの貸出で旅の楽しみをグレードアップ  
⇒ 参加意識を一層向上！

こんなことも提案しました！

☆Local cooking コンテスト

ホテル発の地産地消お料理コンテスト。優勝者のメニューを実際にホテルで提供。

☆キャンドルロード

世界的環境イベント「アースアワー」にあわせて、結婚式で使われたキャンドルを再利用したロマンティックなイベント。

「～生物多様性を楽しむ～  
ホテル周辺SANPOマップ」



持続可能な社会へのポイント

- 次世代へのアプローチ
- 非日常を演出する  
ホテルならではのプラン
- お客様が楽しんで体感できる

取組による効果

環境に関心がない人達も  
楽しく体感。次世代の取り  
込みと持続可能性について  
考えるきっかけづくりに。



研究員からのメッセージ

お客様だけではなく、株式会社ナゴヤキャッスルの特徴も踏まえて、環境に配慮したサービスを考えました。ホテルは非日常空間ということで、その中で環境に配慮したサービスを考えることはとても難しかったですが、みんなで趣向を凝らして考えました。株式会社ナゴヤキャッスルの皆さんと連携して、提案を具体化していきたいです。

- チーム・キャッスル ★ 大同大学 3年 野上 恭佑 / 日本福祉大学 1年 中村 梨菜  
金城学院大学 1年 西村 舞美 / 星城大学 3年 古澤 基輝  
ファシリテーター フィトラボ 代表 松本 イズミ氏 (★=リーダー)



## 課題

自社ブランドの環境配慮商品について、若い世代向けの新たな商品を開発せよ!

プライベートブランド「eco!on」において、昨年度の研究所では学生による動画制作など新たなPR手法を検討した。今年度は「eco!on」商品の開発に若者のアイデアとセンスを生かし、新しい商品開発に取り組む。

## 解決策

# 日常から使いたくなる eco!on防災グッズの提案

### 解決策の方向性(考え方)

ユニーが積極的に取り組んでいる環境と防災。この特徴を生かし、防災が若者とユニー、若者とエコをつなぐと考え、新しい「eco!on」のカテゴリーを検討した。

### 具体的な展開案

### 若者×環境→アウトドア→防災!?

若者の行動を調査した結果、アウトドアのニーズがあることが判明。企業環境活動研究の際、ISO14001に「環境=人の命」という概念があることを知る。そこでアウトドアの知識・経験は防災や避難生活に生かせると考え、0次防災の考え方を踏まえた商品提案で課題解決を進めることに決定。

### eco!onとは?

環境負荷の少ない、安心・安全なユニーのプライベートブランド商品。原料や製造過程、容器包装、省エネ、再資源化等に配慮しており、商品購入によるエコの推進を目的とする。



### 解決策1 防災機能カスタマイズリュック

日常使いのリュック(標準装備&機能:パラコードミサンガ/防水)プラス カスタマイズアイテムを提案。カスタマイズにより若者はもちろん、あらゆる世代にも対応する「オリジナル防災リュック」が完成。リュックのデザインやカスタマイズアイテムについて、若者、また一般消費者等にアンケート調査をし、「ナマ声」を開発商品に取り入れる。もちろん素材はリサイクル素材やオーガニックコットン等で環境配慮型。

- 素材 リサイクル素材やオーガニックコットン等
- 機能 防水/持ち手:パラコードミサンガ(緊急用ロープ)等



商品イメージ

### 解決策2 参加型イベントでのPR

若者の日常生活にエコと防災を取り入れるきっかけとなるよう、ユニーで消費者参加型イベントを開催。防災用備蓄食糧をバーベキュースタイルで食べ、「イザ飯」を体験し、「ローリングストック」を学ぶ。ユニー店舗に設置されている非常時にかまどになるベンチ等の防災設備を実際に使用する「イザ飯イベント」開催でリュックのPRも行う。その情報をWEBやSNSで拡散。



非常時に、かまどになるベンチ

### 持続可能な社会へのポイント

持続可能な社会を考えたとき、命を守ることは最も大切なキーワード。eco!onに新たな切り口である「防災」を加えた商品とPRイベントで、若い世代と地域の方に、日常からエコと防災を意識してもらい、命と環境を守ることの大切さ、行動するきっかけづくりを実施。



ユニーの社内会議で提案内容をプレゼンするチーム・ユニーの学生

### 研究員からのメッセージ

ユニー株式会社は環境・地域貢献に熱心なエコ・ファースト企業です。私たちは研究を通して、持続可能な社会の実現には様々な方法があることを学びました。若い世代や地域のお客様が、日常からエコと防災を意識し、行動するきっかけになってほしい、そんな願いを込めて開発したのがこのリュックサックです。私たち一人ひとりが現在から未来へつなげる選択をし、持続可能な社会を目指しましょう。

#### チーム・ユニー

★名古屋学院大学 3年 浅井 勇人 / 名古屋商科大学 3年 石川 諒  
愛知学院大学 2年 中田 佳穂里 / 名古屋女子大学 3年 松澤 慶子  
(★=リーダー)

#### ファシリテーター

なごや環境大学 丹羽 陽子氏

#### アドバイザー

暮らしの対話研究所 木村 まい氏





TOHO GAS ×



かがやけ★  
あいちサスティナ研究所

課題

環境に対する意識向上・  
行動変容につながる  
新たなイベントを検討せよ!

同社は環境に優しいエネルギーの供給を通じて環境調和型社会の実現に貢献しているほか、ガスエネルギー館やビオトープでの環境学習、エコ・クッキング活動など多様な環境活動も実施している。昨年度の研究所では環境活動の輪を広げる仕組みを検討した。これらを踏まえ、エコなライフスタイルなどを人々に提案する環境イベントの内容について検討する。

解決策

環境イベントで新発想!  
環境かるた「ワカルタ!」



解決策の方向性(考え方)

東邦ガスが開催するイベントや出展するブースなどで、環境かるた「ワカルタ!」を活用。参加者に楽しみながら環境問題・天然ガス等を理解してもらい、持続可能な社会に向けた行動を促す。

具体的な展開案

みんなで遊んでエコを体感!

楽しみながら親子で環境行動へ

POINT

参加者に良いところ

- 遊びながら環境学習ができる
- 自発的に環境を考えるきっかけが得られる
- 幅広い世代で一緒に楽しめる

東邦ガスに良いところ

- 質の高い環境プログラムを、少ない労力で実施できる
- イベントの規模や時間、対象者等に臨機応変に対応できる

遊びだけで終わらせない、  
さらなる学びへ!

かるた本来の遊び方に加えて、3つの遊び方があります。

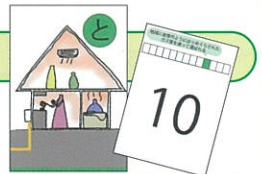
「エコ・チェック☑️～身近なエコ・アクション～」の遊び方

自分の取り組んでいるエコ・アクションの環境貢献度を裏のCO<sub>2</sub>削減量(=木の本数)でチェックし、環境レベルを認定。その認定レベルごとに、エコ・アクションをフィードバックしてもらい、イベント参加者みんなで共有する。



「火とつながれ🔥～天然ガスの供給経路～」の遊び方

天然ガスの供給経路の順番を予想して並べ替える。答えは、裏に書いてある供給段階の番号で合わせる。



「CHANGE THE WORLD ～環境問題の原因と未来像を考えよう～」の遊び方

環境問題の原因と現状、持続不可能な未来がかかるたに書かれています。それを踏まえて、持続可能な未来を実現するための解決策を話し合う。



持続可能な社会へのポイント

- 「ワカルタ!」を通じて、自発的なエコ・アクションにつなげる
- 天然ガスの供給経路を学び、有限なエネルギーを大切にする
- 「火とのつながり」を理解し、「人のつながり」を認識する



研究員からのメッセージ

持続可能な社会を作るためには、まずは自分達自身でしっかり環境に関する現状と知識を「理解すること」が大切です。「ワカルタ!」を使って手軽にわかりやすく、環境に関する情報や、自分たちがやるべきことを学び、自分にできるエコ・アクションを行っていきましょう!

チーム・東邦ガス ★名古屋大学大学院 1年 山本 大貴 / 名古屋市立大学 2年 加藤 祐希  
名古屋工業大学大学院 1年 清水 万莉奈 / 南山大学 1年 山田 紗佑里 (★=リーダー)

ファシリテーター ビオトープ・ネットワーク中部 会長 長谷川 明子氏



## 課題

**稲沢・幸田両サイトが連携し、工場が地域と共生する環境取組を検討せよ!**

同社の各サイトでは様々な環境に関する取組を実施しており、昨年度の研究所では幸田サイトの「ソニーの森」における環境活動について、社員・地域に広げるための方策を検討し、実践している。今年度は稲沢・幸田両サイトが連携し、地域と共生する環境活動を検討するとともに、同社の全国モデルになる環境活動のビジョンを検討する。

## 解決策

**ソニー環境隊! 自然を守る人づくり 社員から地域、そして全国へ!**

### 解決策の方向性(考え方)

幸田サイトと稲沢サイトは周辺環境が大きく異なる。全国のサイトに展開でき、なおかつ地域との連携、社員の意識改革につながる提案を検討した。

### 具体的な展開案

#### 解決策1 **なにになに? 森ってどんなところ? 行こうよ! ソニーの森!**

**POINT** 参加者に環境に興味をもってもらう!

稲沢・幸田両サイトの交流を図るために、稲沢サイトの社員の家族や稲沢市の地域の住民の方を対象にした、バスツアーを実施。幸田サイトの「ソニーの森」において、フクロウの棲む豊かな森を楽しみながら体験する。

#### ソニーの森



ソニーの森とは、「緑豊かな公園工場」として、1972年幸田サイト設立からある社員憩いの森。「フクロウの棲む森づくり」では、社員が自らソニーの森の保全活動を行い、フクロウの巣箱設置等の取組を実施している。また、「どんぐりの苗木づくり」では、地元の小中学校とともにどんぐりの苗木の育成と植樹活動を行っている。

#### 具体的なタイムテーブル

09:00	稲沢集合で幸田へ出発
10:00	ソニーの森で学ぼう! 遊ぼう! 昨年企画の森の案内人とmapを活用して見つけた草花、昆虫などをチェック
11:00	「大切な自然」と思うものを参加者が1つ見つけよう! ①ソニー製のカメラで写真に収める → 大人対象 ②絵に描く → 子ども対象
12:30	昼食
13:30	交流タイム 「その絵を描いた動機は何か?」など自然に触れて感じたことを、描いた絵を順番に見せながら話してもらう
14:30	手作りアスレチック体験
15:30	終了→バスで稲沢へ

#### 解決策2 **全社員をソニー環境隊に! 稲沢サイト敷地内に緑を増やそう!**

**POINT** 社員の意識向上、地域との連携!

環境意識を向上させるため、社員自身でサイト内を緑化し、社員は「ソニー環境隊」として整備・清掃を行う。整備するとエコポイントが付与され、カフェテリアで商品が買えるシステムを導入することで、楽しく活動できる仕組みを作る。

また、「環境に対する意識を持つ」から「行動」への機会をつくる。社員が創出した緑化スペースでは、幸田のソニーの森の取組の良いところを生かし、地域の方を呼んで楽しいイベントや環境教育を行う。これによって地域との共生が図られ、地域と一緒に実践する環境取組につながる。



### 持続可能な社会へのポイント

- 地域の子どもが次世代へ自然の魅力を伝えていけるようになる
- 社員1人1人の意識が変わり、地域の環境を維持することができる
- 社員と地域が協働して自然と触れ合うことで、環境意識が向上する



### 研究員からのメッセージ

私たちは「ソニーの森」へ行って、自然の大切さを学びました。周りを見れば、守るべき環境はすぐそこにあります。みなさんも、周りにある自然に目を向けてみませんか。そうすれば あなたもソニー環境隊の一員です!

**チーム・ソニー** ★ 愛知淑徳大学 3年 石黒 友理 / 愛知淑徳大学 2年 倉野 愛弓  
愛知淑徳大学 2年 新谷 彩織 / 愛知淑徳大学 1年 丹羽 将旗 (★=リーダー)

**ファシリテーター** 愛知淑徳大学 コミュニティ・コラボレーションセンター(CCC) 秋田 有加里氏





## 課題

### ミツカンの環境活動を小学生にわかりやすく伝えるプログラムを検討せよ!

2015年 秋に開館した「MIZKAN MUSEUM (愛称MIM)」では、ミツカンの伝統・文化を体感する場を提供し、来館者に環境意識の醸成を図っている。今後は、次世代の担い手となる地域の小学生を対象にした教育プログラムをスタートする予定であり、資源の有効利用、地域の伝統・文化などをテーマとした楽しみながら学習できるプログラムを検討する。

## 解決策

### やがて、いのちが変わるもの。 「いただきます」で始まるエコアクション!

#### 解決策の方向性 (考え方)

ミツカンのグループビジョン・スローガンであり、社員の心に刻まれる「やがて、いのちが変わるもの。」を基本コンセプトに、MIMの来館者に楽しみながら、水を大切にし、自然を身近に感じることで、エコアクションの実践につながるプログラムを検討した。

#### 具体的な展開案

#### みんなでオリジナル鍋をつくろう!

ミツカンの環境活動全てに通じるグループビジョン・スローガン「やがて、いのちが変わるもの。」このテーマを小学生にわかりやすく伝える、食育と環境学習を合わせたプログラム。

- ①ゲームを通して自分たちだけの鍋を作り、食材がどこから来たのかをグループで話し合うことで、子どもたちに自然の良さやいのちの大切さを体感してもらう。
  - ②美しい自然の映像をクイズを交えて鑑賞することで、自然の中に生態系が存在することに気づき、豊かな自然を守るために自分に何ができるかを考えてもらう。
- 小学校高学年の社会見学や、夏休み期間等に小学生が参加できる特別企画として実施する、1時間程度のプログラム。

- 鍋づくり**
  - オリジナルのおいしい鍋を作ろう!
  - 食材を選ぶ
- 話し合い**
  - 食材がどこから来たのか?
  - 生態系を想像させる
- 気づき**
  - 豊かな自然、いのちの大切さを感じてもらおう



#### MIZKAN MUSEUM ミツカンミュージアム 愛称:MIM (ミム)

ミツカンの酢づくりの歴史や、食文化の魅力にふれ、楽しみ学べるMIMは、半田市にある体験型博物館。来館者はガイドが同行したツアーで、お酢の作り方やミツカン、半田市の歴史について学習することができる。



#### 持続可能な社会へのポイント

普段の何気ない食事には、様々な人たちが関わり、自然の恵みによって私たちは支えられていることを伝えることで、次世代の担い手である子どもの環境意識を醸成するとともに、その親世代にも広く伝える。

#### 研究員からのメッセージ

わたしたちは毎日の食事の前、当たり前といっってよいほど「いただきます」を言っています。何を「いただきます」なのか。どうして「いただきます」を言うのか。「いただきます」の意味をもう一度見直すことで、好奇心旺盛な小学生の子どもたちに、生物多様性を含めた環境問題に対する意識の向上をはかります。今回提案させていただくプログラムが、子どもたちが環境問題について考えるきっかけのひとつになればよいとチーム一同願っております。

**チーム・ミツカン** ★名古屋市立大学 4年 神谷 総一郎 / 愛知教育大学 3年 纈纈 絵莉  
 南山大学 1年 鈴木 杏 / 名古屋大学 3年 山田 美佳  
**ファシリテーター** NPO法人アスクネット 代表理事 白上 昌子氏 (★=リーダー)



## 課題

### アイシン精機(自動車部品製造業)の環境取組のPR方法を検討せよ!

同社では「ものづくり」等の事業活動を通じて、人と地球の未来にわたる調和と持続可能な社会の構築に向けて様々な環境取組を行っている。部品メーカーとしてのこれらの取組を広く周知するため、現地・現物・現認により実態を把握するとともに、環境取組をより発展できるようなPR方法について、新たな方向性や具体策を検討する。

## 解決策

### 「現場でしか見えないものがある」 アイシンの環境取組を、 見て・聞いて・体験しよう!

### 解決策の方向性(考え方)

アイシン精機の環境取組等を現地・現物・現認により学ぶ中で、アイシン社員(アイシマン)から感じられた情熱、本気さをもっと多くの人に伝えることで、アイシファンを増やし、アイシン精機の環境取組を応援したいと考え、解決策を検討した。

### 具体的な展開案

#### 解決策1 エコマスターへの道 ～アイシマンに会いに行こう!～

##### POINT 小学生からその家族に口コミで広げる

アイシン精機の環境取組を、年間を通して、工場などの現場で楽しみながら体験できるプログラムを実施。

#### エコマスターへの道

アイシマンに会いに行こう!

[募集人数]:20組 親子連れで40人を、幅広く一般公募!

	4月	6月	9月	12月
MISSION	アイシンの現場に潜入せよ!	自然の魅力を発見せよ!	アイシンのものづくりを体験せよ!	君はエコマスターになれるか?!
AM	●西尾工場見学 ●排水処理見学	●生きもの観察	●スケルトンカーづくり	●環境調査体験
PM	●分析室見学 ●コムセンター見学	●農作体験	●収穫体験	●新聞作成 ●クイズに挑戦

各MISSIONをクリアすると、缶バッジをプレゼント!

廃材や自然素材から、オリジナルのスケルトンカーをつくらう!

スケルトンモデルをつくらう!

工場見学により、アイシンのモノづくりに対する真摯な姿勢を現場で学習するとともに、季節ごとに、半田工場内のピオトープ(アイシンエコトピア)で環境取組に関連したアクティビティを実施する。最終回には、環境クイズや1年間の活動をまとめた新聞を作成し、すべてのプログラムに参加した人を「アイシンエコマスター」として、認定する。

#### 解決策2 アイシマンの仲間入り

##### POINT 企業情報に関するアンテナが高く、 企業ボランティア等のニーズがある 大学生を対象

アイシン精機の環境取組を大学生に知ってもらうために、大学生が現場でアイシマンと対話・交流でき、さらに小学生の指導者としても活躍できるプログラムを実施。

#### [プログラムの流れ]

	4月	6月	9月	12月	その後
大学生	●社員との事前打ち合わせ	●畑の下準備 ●生き物観察準備 ●ワークシート準備	●野菜の世話 ●工作の下準備	●クイズ準備 ●新聞作成準備	●社員向け報告会 ●新聞掲示
小学生	●西尾工場見学 ●排水処理見学 ●環境分析室見学 ●コムセンター見学	●生きもの観察・図鑑作成 ●農作体験	●材料集め ●スケルトンカーづくり ●野菜収穫体験	●環境調査体験 ●新聞作成 ●クイズに挑戦	

小学生向けの「エコマスターへの道」において、大学生がサポートスタッフとしてプログラムの企画・運営に主体的に関わる。大学生向けのプログラム内容として、アイシン精機社員との事前打合せや、事後報告会を実施する。アイシマンと一緒に活動することで、会社や社員をより身近に感じることができ、アイシン精機に入社したい、興味を持ってもらう人を増やすことができる。また、年間通してプログラムに参加した人は、「大学生アイシマン」として認定する。

### 持続可能な社会へのポイント

- プログラム参加者がアイシン精機の環境取組を現地で学ぶことにより、環境意識を育むことができることから、日常生活においてもエコアクションを実践できるようになる
- アイシン精機の環境取組をPRすることにより、環境取組に関してトッランナーであるアイシン精機の取組がより活発になるとともに、本地域の他企業の環境取組の底上げにつながる

### 研究員からのメッセージ

私たちは研究活動の中で、アイシン精機のキーワードである現地・現物・現認を実践し、会社そしてアイシマンの熱意、誠実さを学びました。この思い、アイシン精機の環境取組を小学生、大学生などの若い世代を中心に伝え、次の世代にもつなげられるように、2つの提案をしました。今回の提案により、多くの人にアイシン精機の環境取組を広げ、もっとエコアクションを多くの人に広めたいです!

チーム・アイシン ★ 愛知淑徳大学 3年 和田 実咲 / 名古屋学芸大学 3年 小澤 ことは  
名古屋産業大学 2年 川北 貴士 / 愛知県立大学 3年 二石 佳南  
ファシリテーター 環境カウンセラー 浅野 智恵美氏 (★=リーダー)



課題

**この地域で水素社会を実現するために  
空港島でできる  
水素活用のビジョンを策定せよ!**

セントレアでは開港時から「環境への配慮」を基本理念として掲げ、「持続可能な社会」の実現に向け様々な取組を行っている。その一つが、究極のエコエネルギーと言われる水素の活用。2005年の愛知万博で利用された燃料電池バスや水素ステーションの実証実験もセントレアで実施。この成果を継承して、今後の水素の活用の方向性や具体策を検討する。

解決策

**サスティナブル空港を目指した  
「セントレア★水素ビジョン」**

解決策の方向性（考え方）

環境に配慮したサスティナブル空港として二酸化炭素を極力排出しない世界初のCO<sub>2</sub>フリー空港を地域とともに目指す。そのために、10年、20年先の水素活用のビジョンを検討した。

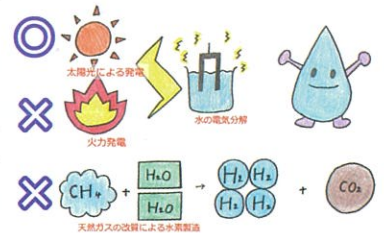
具体的な展開案

解決策1 ロードマップ

	現在	2020年 東京オリンピック	2027年 リニア開通	2036年 現在から20年後	2050年
水素の製造	太陽光発電による水素製造	→	バイオマスによる水素製造	→	CO <sub>2</sub> フリーの空港を目指して
水素の利用	水素ステーション FCフォークリフト	→	乗り物の燃料電池化 水素パイプラインの整備	→	
情報の発信	水素パビリオンによる情報発信	→			

解決策2 CO<sub>2</sub>フリー水素の製造!

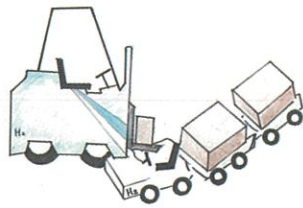
貨物エリアの屋根、愛知県が造る大規模展示場の屋根に太陽光パネルを設置し、余剰電力でCO<sub>2</sub>フリーの水素を製造。また、地元の知多半島の資源を生かし、バイオマス発電を活用した水素製造を地域連携で進める。



解決策3 空港島での水素の利用!

知多半島初の商用水素ステーションを稼働させ、空港内のフォークリフトを燃料電池に転換。空港内に水素パイプラインを整備し、セントレア内の飛行機以外の乗り物をすべて燃料電池化したCO<sub>2</sub>フリー空港を目指していく。また、自前の電気・熱供給システムにも水素の活用を検討する。

空港島内の乗り物などに利用



解決策4 「スイソリオン」からの情報発信!

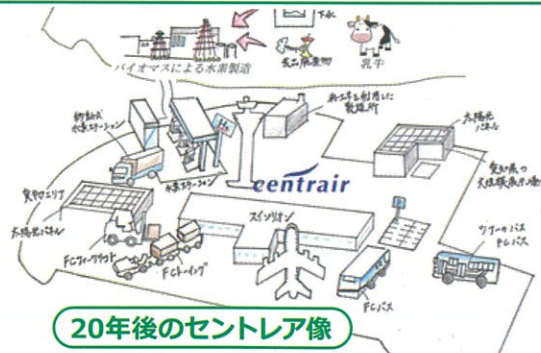
セントレアは国内外多くの方が玄関口として利用する場。この立地を生かして、水素社会を知ってもらうための水素パビリオン「スイソリオン」を設置。水素はどうやって作るのか、どんなことができるのか、などを老若男女が楽しみながら学ぶことができる施設とする。



スイソリオンのイメージ

持続可能な社会へのポイント

- この地域で水素社会の実現をリードする
- セントレアでCO<sub>2</sub>フリーの水素を製造し、飛行機以外の乗り物はCO<sub>2</sub>排出量0にする
- 世界に愛知県の環境技術を発信できる



20年後のセントレア像

研究員からのメッセージ

私たちが提案したビジョンを実現することにより、愛知県が誇る世界一のサスティナブル空港を目指して欲しいと思います。そして地域と連携し、水素社会のパイオニアになることを期待しています。

チーム・セントレア ★愛知県立大学大学院 1年 浅見 直弥 / 名古屋工業大学 4年 安藤 剛  
東海学園大学 3年 呉 里歌 / 金城学院大学 1年 村田 沙耶果  
(★=リーダー)

ファシリテーター 名古屋大学 大学院環境学専攻 特任准教授 杉山 範子氏





## かがやけ★あいちサステイナ研究所とは

未来の地域の担い手となる大学生が、グローバルな視点を持って継続的にエコアクションを実施することができるように、愛知県が立ち上げたプロジェクトです。パートナー企業から提示された環境課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や、企業担当者とのディスカッションを実施します。解決策を企業側に提案し、その成果を広くPRします。

研究成果の詳細はこちらでチェック

HP <http://sustaina-ken.net/>



<https://www.facebook.com/kagayaken/>



@kagayake\_aichi



kagayake\_aichi

